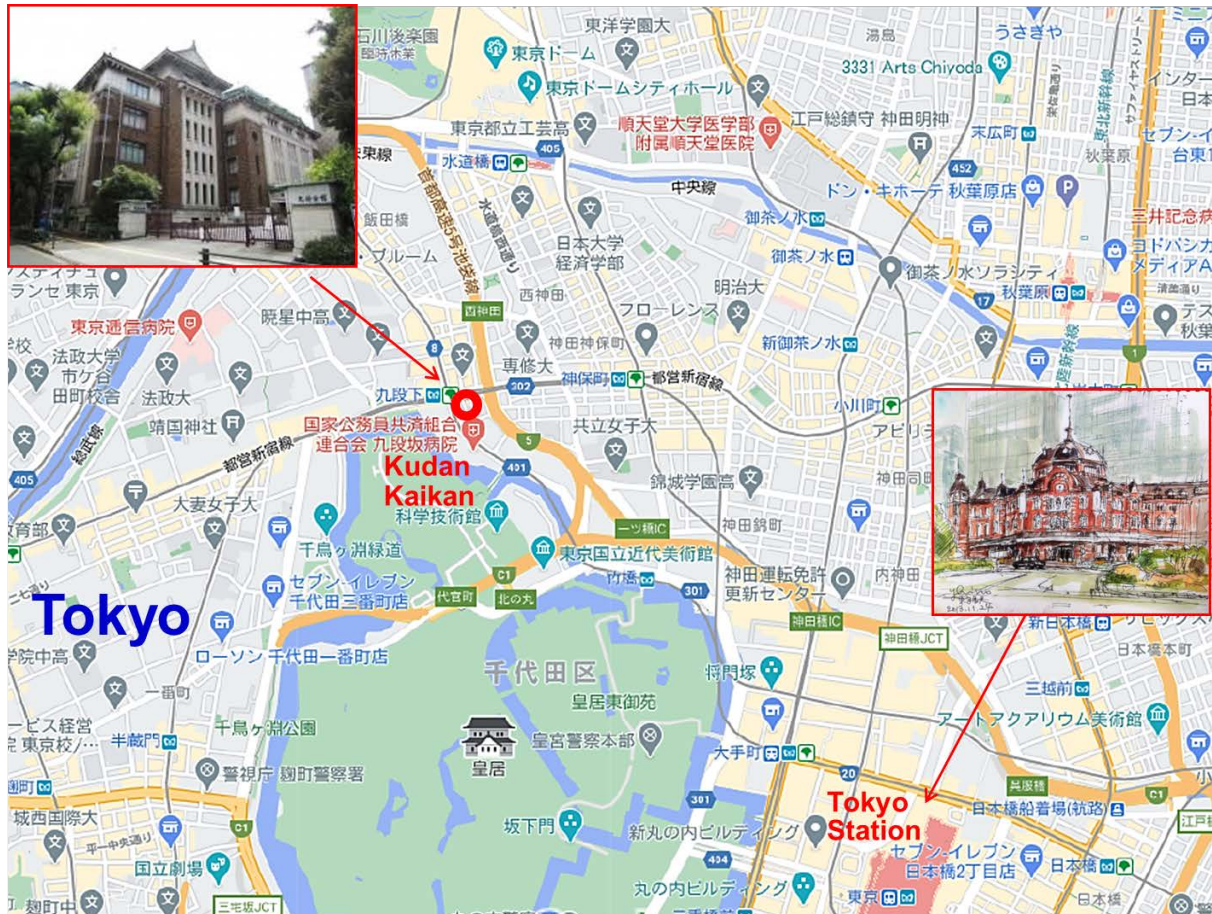


RFID Latest Trends Symposium 東京

日程 : 2006. 03. 15

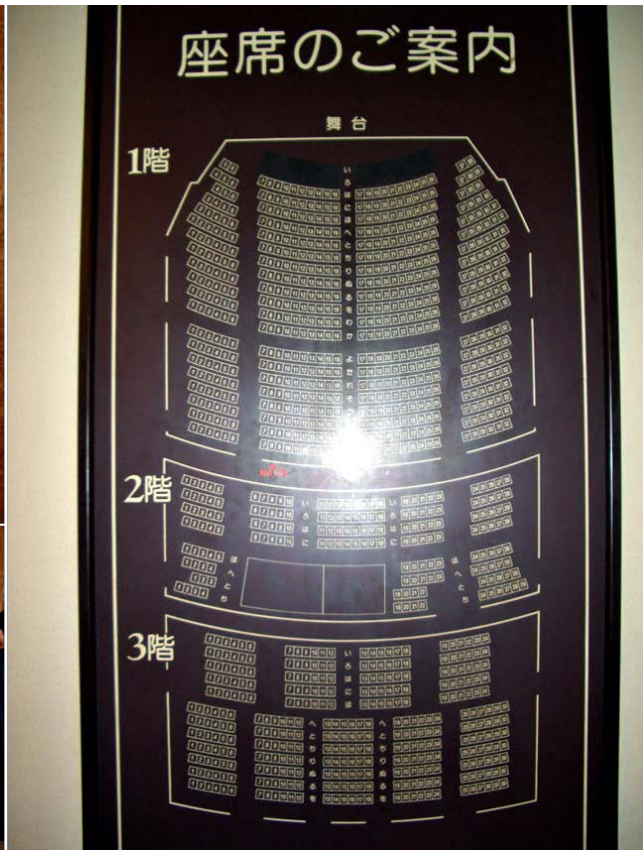
RFID Latest Trends Symposium

2006年3月15日に東京の九段会館でRFID最新動向シンポジウムが行われた。この会議は、京都国際会議場で行われているSC31WG4(3月17日)に出席予定のRFID関連委員を招聘して行われたものである。主催は(社)電子情報技術産業協会(JEITA)と(社)日本自動認識システム協会(JAISA)で、JEITAはSC31の国内審議団体でもある。





Tokyo Kudan Kaikan



開催にあたって

高度情報化社会の到来により、社会のあらゆるシーンでIT技術の利活用が推進されています。その中でも、電子タグ(RFID)はこれからのIT社会の基盤デバイスとして、製造、物流、流通、小売、交通、セキュリティ、環境保護、リサイクルなど幅広い分野において導入が開始されようとしています。

本シンポジウムでは、最初に政府による電子タグの国家戦略や国家プロジェクトを紹介して頂きます。

続いて、電子タグに係わる世界のトップレベルの専門家に、海外における電子タグの最新状況と今後の展開について講演をして頂きます。米国からは、ISO電子タグ関連委員会米国代表、国防総省の電子タグ導入責任者、欧州からはEPCグローバルの技術責任者と英国の電子タグの国際標準化コンサルタントを招いています。

今回は世界の電子タグの最前線情報を得る絶好の機会と存じます。この機会に、是非ともご聴講いただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

社団法人 電子情報技術産業協会

プログラム／目次

10:00~10:05	開会挨拶	吹譯正憲 氏 (社) 電子情報技術産業協会 専務理事	
10:05~10:10	委員長挨拶	柴田 彰 氏 (株) デンソーウェーブ自動認識事業部 主幹 JEITA/AIDC (委)、ISO/IEC JTC1/SC31 国内委員長	
10:10~11:00	ユビキタス IT 社会に向けた RFID の発展	齊藤忠夫 氏 東京大学 名誉教授 工学博士 内閣府 総合科学技術会議 科学技術システム改革専門調査会 専門委員	1
11:00~11:50	電子タグ・未来に響く IT 政策	加藤洋一 氏 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課長	21
11:50~12:50	休憩 (昼食)		
12:50~13:05	RFID-ISO への日本の取組み	吉岡稔弘 氏 (株) AI 総研 代表取締役社長 ISO/IEC JTC1/SC31/WG2 国際コンビナー	35
13:05~13:45	EPC グローバルネットワークの構造	Henri Barthel 氏 EPC グローバル 技術担当責任者	47
13:45~14:25	AIDC 技術に関する ISO/JTC1 規格最新情報	Craig Harmon 氏 Q.E.D. Systems 代表取締役社長 ISO TC104/TC122 JWG 国際コンビナー 米国国家規格物流部会 委員長	63
14:25~15:05	米国国防総省および NATO における RFID 導入	Dan Kimball 氏 米国国防総省 (DOD) 電子タグ導入責任者	99
15:05~15:20	休憩 (コーヒープレイク)		
15:20~16:00	RFID ミドルウェア-AIDC へのアプローチ	Paul Chartier 氏 Praxis Consultants 代表取締役社長 ISO/IEC JTC1/SC31/WG4/SG1 国際コンビナー	117
16:00~17:30	パネルディスカッション	司会 吉岡 稔弘 氏	

場所：東京 「九段会館ホール」

世界における

RFID

最新動向シンポジウム

日時 2006年3月15日(水) 10:00~17:30
会場 九段会館ホール

開催概要

開催にあたって

プログラム

参加申込み

**RFID分野における世界の第一人者が一堂に！
世界の最新動向が直接掴める必見の講演！！**

電子タグの国家戦略と、国際標準化動向の紹介
RFID/ISO審議主力メンバーによる海外利活動動向の紹介

開催概要

▼ OUTLINE

- 期 日 : 2006年3月15日(水) 10:00~17:30
- 会 場 : [九段会館ホール](#)
[東京都千代田区九段南1-6-5](#)
- 定 員 : 1,000名
- 参 加 費 : 20,000円(消費税込み) ※テキスト、同時通訳付
- 支 払 方 法 : 申込後に「受講証」と「御請求書」を郵送させていただきますので、
請求書に従いましてお振り込みください。
- 申 込 期 限 : **3月10日(金)**
申込期限内であっても、定員になり次第締め切らせていただきますので、
お早めにお申し込みください。
- 主 催 : [社団法人電子情報技術産業協会 \(JEITA\)](#)
[自動認識及びデータ取得技術標準化委員会 \(AIDC\)](#)
ISO/IEC JTC1 SC31国内対策委員会合同委員会
- 後 援 : [経済産業省](#)、[\(社\)港湾荷役機械システム協会](#)、[\(財\)国際情報化協力センター](#)、[次世代空港システム技術
研究組合](#)、[次世代電子商取引推進協議会](#)、[\(社\)情報処理学会](#)、[\(社\)日本アパレル産業協会](#)、[\(社\)日本自
動認識システム協会](#)、[\(社\)日本包装技術協会](#)、[\(財\)日本貿易関係手続簡易化協会](#)、[\(社\)日本ロジスティ
クスシステム協会](#)、[\(財\)流通システム開発センター](#)
- 運営・
問合せ : [日本エレクトロニクスショー協会](#) 担当: 小田・吉永・石崎
東京都港区芝大門1-12-16 住友芝大門ビル2号館5F (〒105-0012)
電話: (03)5402-7601 FAX: (03)5402-7605 E-mail: rfd@jesa.or.jp

[参加申込フォームはこちら>>](#)

開催にあたって

▼ INFORMATION

高度情報化社会の到来により、社会のあらゆるシーンでIT技術の利活用が推進されています。その中でも、電子タグ（RFID）はこれからのIT社会の基盤デバイスとして、製造、物流、流通、小売、交通、セキュリティ、環境保護、リサイクルなど幅広い分野において導入が開始されようとしています。

本シンポジウムでは、最初に政府による電子タグの国家戦略や国家プロジェクトを紹介して頂きます。続いて、電子タグに係わる世界のトップレベルの専門家に、海外における電子タグの最新状況と今後の展開について講演して頂きます。米国からは、ISO電子タグ関連委員会米国代表、国防総省の電子タグ導入責任者、欧州からはEPCグローバルの技術責任者と英国の電子タグの国際標準化コンサルタントを招いています。

今回は世界の電子タグの最前線情報を得る絶好の機会と存じます。この機会に、是非ともご聴講いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

社団法人 電子情報技術産業協会

[🔗 ページトップへ戻る](#)

3月15日 プログラム

▼ PROGRAM

10:00～10:05 開会挨拶



吹譯 正憲 氏

(社) 電子情報技術産業協会 専務理事

10:05～10:10 委員長挨拶



柴田 彰 氏

(株)デンソーウェーブ自動認識事業部 主幹
JEITA/AIDC(委)、ISO/IEC JTC1/SC31国内委員長

10:10～11:00 ユビキタスIT社会に向けたRFIDの発展



齊藤 忠夫 氏

東京大学 名誉教授 工学博士
内閣府 総合科学技術会議
科学技術システム改革専門調査会 専門委員

超小型チップの商品流通への活用はバーコードの発展形態として高い関心を集め、電子タグの低コスト化が進めば、流通システム全般に活用され改善に大きく寄与すると期待されている。同時に、サイバー空間とリアル空間を結合する技術としても活用が期待され、政府も研究を支援している。本講演の中では、RFIDの現在とその発展形について、世界の動きと内閣府ユビキタスネットワーク連携群の研究を中心に紹介する。

11:00～11:50 電子タグ・未来に響くIT政策



加藤 洋一 氏

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課長

電子タグは、あらゆる産業において革命的な商物流の効率化や新たなサービスの創出をもたらす原動力であり、産業界にとって国際競争力強化を図る絶好のチャンスをもたらすものである。ITのグローバルな本質を踏まえ、国際社会の中で生きる我が国として、内外のシームレスな共通基盤を如何に効果的に構築していくか、そのための具体的な政策や推進体制は如何なるものかなどについて官民一体となった現在の取組みについて紹介する。

11:50~12:50 休憩(昼食)

12:50~13:05 RFID-ISOへの日本の取組み



吉岡 稔弘 氏

(株)A I総研 代表取締役社長
ISO/IEC JTC1/SC31/WG2国際コンピナー

RFIDが広く普及するためには国際標準の確立が大きなキーになる。日本も、様々な国際標準委員会に委員を派遣し、国際標準の審議に大きく貢献している。今回の講演では、RFIDの国際標準化において重要な役割を果たしている方々を講師陣に迎え、貴重な話をうかがうことができ、国際標準の審議にたずさわる一員としてその内容に大いに期待するとともに、講師としておいでいただいたことに深く感謝する次第である。

13:05~13:45 EPCグローバルネットワークの構造



Henri Barthel 氏

EPCグローバル 技術担当責任者

活用次第で作業効率を大幅に改善する可能性を持った技術として世界が認めるRFIDは、データアクセス方法と情報交換の効率化をうまく組み合わせることで、業務改善への大きな効果が見込める。EPCグローバルはこの面での包括的なアプローチを提供している。今回はEPCグローバルという組織を紹介するとともに、取り組んでいる標準規格、EPCグローバルの提供するRFID利活用の枠組みを説明する。

13:45~14:25 AIDC技術に関するISO/JTC1規格最新情報



Craig Harmon 氏

Q.E.D. Systems代表取締役社長
ISO TC104/TC122 JWG国際コンピナー 米国国家規格物流部会 委員長

ここ数年に渡ってRFIDの標準化に取り組んでいるISO及びJTC1(ISO/IEC)の様々な委員会の審議内容は、テクノロジー、コンフォーマンス、データ構造、ネットワーク、アプリケーションと多方面に亘る。特に、ISO/IEC JTC1/SC31のWG4は数多くの技術規格、ISO TC122/TC104のJWGは5つのアプリケーション規格、TC204はITS関係の規格を審議し、成立させてきた。それらの審議経過、概要等を紹介する。

14:25~15:05 米国国防総省およびNATOにおけるRFID導入



Dan Kimball 氏

米国国防総省 (DOD) 電子タグ導入責任者

米国国防総省はRFIDを10年以上活用しており、世界最大のアクティブRFタグのインフラを有している。同時にパッシブRFタグの推進と活用においても先進的な役割を果たしている。また、NATOおよび環太平洋諸国と連携し、多国籍軍でのRFIDアプリケーションの標準化にも取り組んでおり、国防総省のこの面での段階的なアプローチは2005年に始まり、今日も継続中である。これら国防総省の具体的な取組みを紹介する。

15:05~15:20 休憩 (コーヒーブレイク)

15:20~16:00 RFIDミドルウェア – AIDCへのアプローチ



Paul Chartier 氏

Praxis Consultants代表取締役社長
ISO/IEC JTC1/SC31/WG4/SG1国際コンピナー

RFIDの実用化が見え始め、最近RFIDミドルウェアの開発が急ピッチで進みつつある。RFIDのデータプロトコル規格 (ISO/IEC 15961 & 15962) およびシステムマネジメントプロトコル規格 (ISO/IEC 24752) がこのミドルウェア開発にどう寄与しうるのか。バーコードによる従来システムとRFIDの協調と考慮事項、航空手荷物の取り扱いや図書館システムでのリード・ライトでの考慮点など、実例を踏まえて解説する。

16:00~17:30 パネルディスカッション

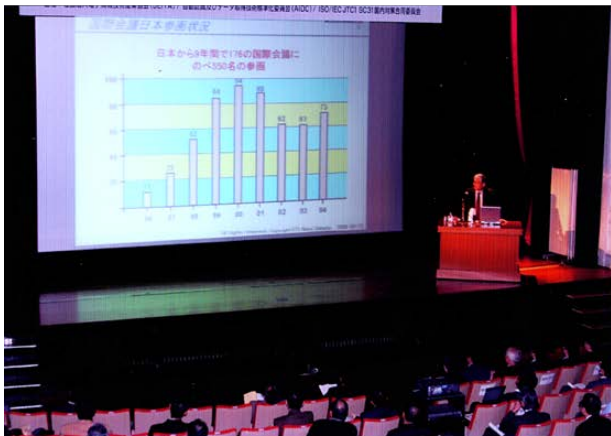
司会 吉岡 稔弘 氏

RFIDの今後の展開について日米欧の講演者によるパネルディスカッションおよび質疑応答

※講演タイトル、講師は変更となる場合がありますので、予めご承知おきください。

[参加申込フォームはこちら>>](#)





RFID Latest Trends Symposium



